

今回の東京大学研修で一番得たものが多かったと思っているのは、「企業大学訪問」です。私たち b 班は、将来経済に関係した職に就こうのと考えている人たちで構成されていて、訪問先の企業を「有限責任監査法人 トーマツ」に決定しました。

デロイトトーマツグループさんはデロイトというグループの一部で元の会社は 1968 年に誕生し、多くの合併、統合、連携、再編を経て現在では人員 8800 人超、業務収入 1400 億円を超える企業です。さらにデロイトはグローバルで世界の人員は 21 万人を超え、業務収入は 340 億米ドルを超える企業となっています。トーマツさんには多くの会計士の方々が勤務していて、日本の中でもかなり規模の大きな会社だと事前にチェックしてありました。しかし、実際に行ってみると東京駅の目の前のとても大きなビルの中であって、正直驚きました。中に入ってみると冷房のきいた部屋に案内していただき、さらに会計士とは如何なるものか、公認会計士になるためにはどれだけの時間とどれだけの努力が必要なのかなどのことをとても丁寧に、多くの資料やビデオをつかって説明してくださいました。それに加えて、バッチ、T シャツ、ボールペン、電卓や会計士に関する本などもいただき、そのあたりも得たものが多かったなと思いました。そして、トーマツさんを訪問した中で最も印象に残っていることは、公認会計士への道のりが私が予想していたものよりもはるかに長く早かったということです。私は大学を卒業し、就職してから 1 年くらい勉強すれば公認会計士になることが出来るのかなと考えていました。しかし、実際もところは大学 1 年生の秋に勉強を始めて、大学 4 年生のときに資格を獲得したといったように、大学在学中に資格をとるというケースが最近はおおいという話を聞きました。これを聞いて最初は驚き、少し不安になったりもしましたが、心構えができたというか、やってやるぞという気持ちになれました。

会計士についての説明を一通りしていただいた後、トーマツさんの仕事場の様子を見させていただきました。仕事場はまず広かったです。さらに驚いたのが、普通の会社では各一人ひとりに決まった席が与えられ、そこで仕事をするのが一般的ですが、トーマツさんの仕事場では、一人ひとりに決まった席はなかったのです。そうすることによって毎日リフレッシュすることが出来るのだなと感じました。そのあたりは、今風に考えられているのだと思いました。さらにその仕事場の奥には休憩所的なところがあって、コーヒーやお茶を飲みながらくつろげる場所でした。私は仕事場に休憩所を設けていることはとても合理的なことだと感じました。長い時間連続して仕事をしていると疲れがたまることに加えて、集中力もだんだんと薄れてくるのだと思います。だから、そんなときに休憩所があれば仕事に区切りをつけて休むことができます。そうすれば、ほどよくリラックスすることもできて集中力も回復するので、その後の仕事の効率も上がるのではないかと思います。その休憩所の近くに本棚があり、気になった本があったので見させていただきました。その本は、会計士をやっていく上で必要な知識などが書かれているものでした。まず驚いたのはすべて英語で書かれていたことです。全部英語で書かれていると英文を訳してからそれを解釈するのが大変だろうなと思っていたら日本語版もありました。日本語版も持ってきて頂いたのですが、英語版の二倍ほど厚く、それだけ会計士として覚えるべきことが多いということに驚きました。日本語版を数ページ読んでみました。本が大きくて持ってページをめくることも大変でしたが、それ以上に本を読み進めるのがおもしろくて夢中になってページをめくり続けてしまいました。本当に学ぶことの多い一日でした。

会計士は株主たちが株式を買うかどうかを決める決算書に不正がないかを確かめる監査を主行っています。その決算書に不正が見つからなければ、会社は決算書を株主たちに公表し、株主はそれを踏まえて判断します。だから、株主にとっては決算書がすべてで決めるわけですからその過程の監査はとても重要になってきます。そのように重要な役割を担っている会計士にもっとも必要な能力を聞いてみたところ、正確に数値を理解してミスをしないう計算力ではなく、トーマツの方々は口をそろえて人と話す能力、つまりコミュニケーション能力がもっ

とも必要であるとおっしゃっていました。その理由は、監査の依頼をとて大きな企業から受けるとその企業に二週間も作業をする場合があり、その企業の人と話す機会が多くなるからです。もし、コミュニケーション能力が欠けていたとしたら最大で二週間以上も依頼主の企業で作業をすることもあるので少し雰囲気が悪くなってしまうと予想できます。この他にもデロイトグループはグローバルなので様々な国の人と話す場面があるとのことなので、その場面でもコミュニケーション能力は重要になってくるのだと思いました。

加えて、会計士をやっていて嬉しいこと、辛いこともきいてみました。辛いことで一番多く挙げたのは企業の決算書に不正を見つけ、その結果を企業に伝えることでした。企業の決算書に不正があったなんてなかなか言いづらくて、そこが辛いところらしいです。会計士をやっていて嬉しいことは、企業に経営について話し合い、それに従って成功した時、企業の人にお礼を言われることだそうです。企業と一緒に考えて、アドバイスしたこと考えたことがうまくいくとそれだけでも嬉しいですが、お礼を言われた時の達成感がなかなか良いものらしいです。

社会に出るうえで重要な高校生のうちに意識すべきことをうかがったら、やはり社会に出ると上下関係がとても大事になってくるとのことでした。高校生でいちばん身近な上下関係といたら、部活です。上の学年の人に失礼な態度をとる、のようなことは社会では決して許されないということです。それと、朝早く起きることも重要だとおっしゃっていました。

私は東大研修を通して、東大に、そして一流の会社の方々にふれて、少し成長した気がします。そんな機会を作ってくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。